

9月25日(土)、第1回「協創フォーラム」が行われました。緊急事態宣言が出されているということもあり、今回は本校生徒とご家族のみに限定して開催しました。今回は「ジャズピアノコンサート」。日頃馴染みが薄い音楽ジャンルですが、参加した約60名の参加者はジャズの魅力に堪能したようです。

ピアノ演奏の山下潤様は、広島修道大学の卒業生。パーカッションの小川裕雅様は広島トップクラスの演奏者。前半はジャズの歴史について山下さんの丁寧な解説付きの演奏で、後半はジャズの名曲の演奏となりました。途中休憩を挟んでの1時間半、心地よい演奏に酔いしれながら、満ち足りたひとときを過ごせたのではないかと思います。参加された保護者からは「次の演奏会は？」というリクエストが早くもありました。



「み・そ・あ・じ」のこと

今から45年前のこと、高校を卒業して岩手から上京した私は、初めて本格的な「札幌ラーメン」を食しました。衝撃的な美味しさのスープ、それは味噌味でした。当たり前ですがその話をするではありません。

「み・そ・あ・じ」(あるいは「あ・じ・み・そ」とは、学校生活上で生徒に身につけて欲しい大切な習慣の頭文字を使った言葉で、多くの学校で取り入れている言葉です。本校でも4月に生徒に伝えました。「み」は身だしなみ、「そ」は掃除、「あ」は挨拶、「じ」は時間のことです。身だしなみを整えること、掃除を丁寧にすること、挨拶を心がけること、時間を大切にすること、これらは学校生活ではもとより、社会生活を送る上においても大切な習慣であることは間違いありません。

『み』『人は見た目が9割』という本がベストセラーになっていると聞きますが、服装、しぐさ、表情、言葉遣いなどによって第一印象が左右され、人間関係に大きく影響されるとか…。それだけで判断するのはどうかと、私は決定的だとは言いきれない派ではあります。しかし、視覚的に判断するものとしての見た目というは結構重要であることは否めません。過度に意識する必要はなくても、TPOに合わせた服装をすること、清潔感を備えることは他者からの誤解をなくす一歩だと感じます。大切な自己表現力です。

『そ』学校の清掃時間は、日本文化の一つと言える貴重な習慣です。海外、特に欧米ではこの習慣はありません。「自分の生活する場所は、自分で綺麗にする」ということは、集団役割の形成や人間形成、心の育成の意味合いにおいて重要な習慣と言えます。

サッカーワールドカップの本選・予選を問わず、サムライ・ブルー(日本代表)を応援する日本人は、青色のビニール袋を使って応援し、終了後、その袋をごみ

袋に替え、会場のごみ拾いをしました。その光景は、日本人の美徳感として世界から注目を浴びました。日本人が持つ、誇るべき素晴らしい感性です。

『あ』人と接するとき、人と人が繋がる時、いわゆるコミュニケーションの第一歩として、何はさて置き「挨拶」は必須であることは揺らぎません。折に触れて話したり、当稿でも記したりしていますが、挨拶の基本は「あかるく、いつでも、さきに、ついてに一言添えて」です。

以前、中学校集会で話したことのような…、私にこんな経験がありました。約20年前のこと、複数の悩みやストレスを抱え、学校に向かうのが億劫になった時がありました。さらに、生徒に会うことが辛くて仕方がないという局面に。ある朝、およそ生徒が登校していない時間に職員室で机に向かっていて、「失礼します。あ、先生、おはようございます。今日はとってもいい天気ですね」と心震えた女子生徒の挨拶。起死回生できた言葉として、心の奥底で大切にしています。

『じ』「時は金なり」と言います。それは、時間を有効に使うこと、刻一刻と刻まれる時間に想いを馳せることの意味です。学校では登校時間に遅れないこと、授業開始時間など、時間厳守の行動を励行します。社会に出たとき、社会の構成員として時間管理にルーズな人になって欲しくないための“学び”です。

時折思うことがあります。それは、世の中の成功者と言われるような人たちは時間の遣い方が上手かったのだろうか、と。年齢を重ね、時間浪費を振り返っています。いや、まだまだこれからと奮起もしています。

コロナ禍、なかなか思うように過ごせない日々が続きます。こんなときだからこそ「み・そ・あ・じ」を含め良い習慣化を意識してもらいたいです。そうした習慣化に伴ってさらに求められるのは、謙虚な姿勢という想いなのではないでしょうか。